

苫小牧東ロータリークラブ

UNITE
FOR
GOOD



TOMAKOMAI EAST ROTARY CLUB

～会報～ 3月号

例会日 木曜日 12:30 第2例会 18:00
 例会場: グランドホテルニュー王子 TEL 31-3111
 ホームページ: <https://toma-east-rc.com/>

「苫小牧東ロータリークラブ会長方針」
“共に考え、共に行動しよう”



～水と衛生月間～

【3月プログラム予定】

～水と衛生月間～

第1例会（5日）会員卓話 石澤智 会員

第2例会（12日）夜間移動例会

第3例会（19日）会員卓和 長沼啓示 会員

第4例会（26日）ゲスト卓和

苫小牧商工会議所専務理事 外園心一様

～今月の誕生祝い～

菅野会員、長岡会員

～今月の創業祝い～

株式会社鈴興



夜間移動例会の「ひとこま」です

ニコニコの内容

出席数・率

財団寄付BOX 33,254円

米山BOX 24,207円

親睦BOX 34,813円

ニコニコBOX 143,260円

ニコニコ

総額 235,534円

3/5

26名 出席率 89.66%

3/12

20名 出席率 71.43%

3/19

20名 出席率 68.97%

3/26

18名 出席率 64.29%



お誕生日おめでとうございます！

【4月プログラム予定】

～環境月間～

第1例会（2日）IM実行委員長 佐藤史典 会員

第2例会（9日）夜間移動例会

第3例会（16日）会員卓和 山田亮太 会員

第4例会（23日）休会（定款第7条第1節）

第5例会（30日）ゲスト卓話

株式会社久恵比寿 代表取締役 畑中稔様

担当

- 会長 南沢 雄二
- 会長エレクト 山田 亮太
- 幹事 緒方 康人
- 会計・副幹事 堀 暢希
- 会報雑誌・広報委員 鍋島 芳弘

事務局

苫小牧市表町1丁目4-5 日商連ビル5階
 月～木曜日の10:00～16:00
 Tel 0144-35-3344 Fax 0144-33-7744
 e-mail: east_toma2510@song.ocn.ne.jp
 事務局 松岡かおり

🔪 会長挨拶

第2例会プログラムの修正に関する補足など、主に会員への重要な連絡事項が周知されました。

会員卓話：石澤智会員

～丸彦渡辺建設 苫小牧支店 ZEBへの挑戦と新社屋計画～

石澤会員より、現在進行中である苫小牧支店の新社屋建設プロジェクトについて、その背景、設計思想、および最新の環境技術について詳細な説明がなされました。

丸彦渡辺建設は創業78年目を迎え、苫小牧支店は2022年の「雨龍建設」との合併を経て、旧雨龍建設の本社ビルを拠点としてきました。しかし、既存の建物は築50年以上が経過し、6～7回もの増改築を繰り返した複雑な構造となっており、近年の地震頻発を受けて耐震性への不安が大きな課題となっていました。これを受け、「社員の安全」と「次世代の働き方」を見据えた全面建て替えが決定されました。



新社屋建設にあたり、以下の3つのキーコンセプトが掲げられました。

- 社員の安全・安心な職場環境
通常の1.25倍の耐震強度を確保。高度なセキュリティシステム、停電時の電源確保、備蓄倉庫の設置など、災害時の拠点としての機能を強化しています。
- 環境負荷低減の推進（ZEBへの挑戦）
Net Zero Energy Building（ZEB）の認定を目指し、一次エネルギー消費量を75%以上削減する計画です。屋根一面への太陽光パネル設置に加え、屋根に15cm、外壁に10cmという極厚の断熱材（発泡ウレタン）を採用し、エネルギー効率を極限まで高めています。
- 新しい働き方への対応
工事部門を中心に「フリーアドレス」を導入。現場から戻った社員が自由な席で仕事ができる環境を整え、オープンスペースや集中ブース、屋上デッキを設けることで、生産性向上と社内コミュニケーションの活性化を図ります。

敷地面積は約914坪、建物は鉄骨造2階建て（延床面積約284坪）。近隣の7階建てマンションへの日影影響を最小限にするため、建物の配置を斜めに振るなどの工夫が凝らされています。また、地域貢献として、工事完了後は近隣住民が利用できる駐車スペースも再び設ける予定です。

スケジュールは、2025年12月に着工。2026年9月に新社屋完成・引越しを行い、その後旧社屋の解体と外構工事を経て、2026年末に全工程を完了する予定です。

また、質疑応答では「ZEB（ゼブ）」の定義について、断熱による「省エネ」と太陽光による「創エネ」の組み合わせであることが改めて解説されました。

石澤会員が「本計画は単なる建て替えにとどまらず、環境性能と社員のウェルビーイングを両立させた、苫小牧市内でも先駆的なオフィスビル建設プロジェクトとなっています」と締めくくり、会場から期待の拍手が送られました。

3月12日(木) 第2例会 夜間移動例会

今回の夜間移動例会は、親睦を深める場として「金剛園」にて開催されました。本会では、木本会員の乾杯挨拶と、次年度の親睦委員長に就く鈴木会員による2つのスピーチが行われました。

木本会員は明るい挨拶で会場の雰囲気を一気に盛り上げ、スピーチの締めくくりとして「乾杯！」と力強く発声。宴のスタートを華やかに飾りました。続いてマイクを握った鈴木会員は、次年度の「親睦委員長」という大役を任されたことに「まだ何もわからない状態で、至らない点多々あるかと思えます。温かい目で見守っていただき、ご協力をお願いいたします。」と述べ、「全員で楽しいクラブを作っていきたい」と意気込みを語りました。会員から拍手が起き、これから大役を務める若手を全員で応援するという、ロータリークラブらしい良好な人間関係が垣間見えるシーンでした。



🔪 会長挨拶

はじめに、「本日の卓話は新入会員の長沼会員です。温かく見守りましょう。」と卓話について紹介しました。

次いで、北洋大学の卒業式に参列し、「若者の活力に触れ翻って自分自身の学生時代はどうだったかと、少し反省するような思いで眺めた」と語りました。

またIM（インターシティー・ミーティング）のPRで近隣クラブを訪問した際には運営の違いから多くの刺激を受けたこと、地元メディアや各学校へもIM参加を呼びかけていることを報告しました。

最後に、「今回のIMは“ウェルカム・トゥ・苫小牧”を掲げ、多文化共生から地域の可能性を探り、自分たちを見つめ直す機会にしたい」と締めくくりました。

会員卓話：長沼啓示会員

長沼会員は、苫小牧工業高校を卒業後、厚真町の建設会社に12年間勤務。その後、外資系生命保険会社へ転職し、営業の世界に身を投じました。生命保険会社ではフルコミッション（完全歩合制）という厳しい環境下で、6度の社内表彰を受けるなど、プロフェッショナルとしての実績を積みました。

営業職に転じて半年後、長男が誕生しました。出産予定日より2週間早く、翌日には旭川での重要な商談を控えていた長沼会員でしたが、奥様からの「旭川、頑張ってきて」という力強い後押しを受け、不眠不休でしたが不退転の決意で商談に臨みました。

この時の「家族に背中を押された経験」が、今の「誰かのために走る」という仕事観の原点となっています。「人の役に立ちたい」という想いは、次第に「地域の役に立ちたい」という志に変わりました。2020年、エゾコーポレーションを設立。社名には「北海道（エゾ）を守りたい」という強い愛郷心と、地域に根ざした価値創造を目指すという意志が込められています。

起業当初は「地域のために」という熱意から、福祉（グループホーム）、不動産、人材育成（パソコン教室）、飲食（そば店など）と、短期間で多くの事業を同時展開しました。しかし、経営資源の分散により生産性が低下するなどの困難に直面。現在は、パソコン教室の譲渡やグループホームの経営分離など、苫小牧の決断を経て「選択と集中」を行いました。現在は以下の3本柱を中心に、地域に根差した経営を続けています。

- 福祉事業（就労継続支援）：障害を持つ方々が働く場として、「一休そば 今々亭（こんこんてい）」や作業所を運営。
- 不動産事業：徹底した管理改善により、管理物件の入居率を70%から94%まで引き上げるなど、実績を積み上げています。
- 飲食事業：地域の老舗の味を継承した「ラーメン 蓬菜」や、社交の場としてスナック「プラネット」を運営。

長沼会員は、独りよがりな経営に陥りそうになった時期、南沢会長をはじめとするロータリークラブの先輩会員たちとの出会いに救われたと語りました。「自己成長は自分次第」「他者の経験に学ぶ」という教えを実践し、現在は48のルールに基づく「組織の仕組み化」に取り組むなど、経営の安定化に成功しています。地域の諸先輩方への感謝を忘れず、これからも「創造力」を持って地域貢献に邁進し続ける決意を述べ、スピーチを締めくくりました。



3月26日(木) 第4例会

会長挨拶

南沢会長は、レッドイーグルス北海道など多くのスポーツが根付く苫小牧において、ファイターズ二軍の誘致が地域活性化や経済効果、人の流れに大きな変化をもたらす重要なプロジェクトであることを強調。地域の未来に関わるタイムリーな卓話から、会員が有意義なヒントを得られる実りある例会にしたいと語り、挨拶を締めくくりました。

ゲスト卓話：ファイターズ二軍誘致に向けて
苫小牧商工会議所専務理事、
ファイターズ二軍誘致期成会の幹事長 外圍（ほかぞの）心一様



1. 誘致活動の背景と現状

2023年7月、日本ハムファイターズが二軍施設の道内移転構想を発表しました。これを受け、苫小牧市はいち早く誘致への挑戦を表明。外圍様が幹事長を務める「期成会」は苫小牧単体ではなく、東胆振・西胆振・日高地方を含む「日胆（にったん）地域」の4市14町の広域連携として誘致を進めている点が大きな特徴です。

2. 苫小牧市の未来展望と誘致の意義

現在、苫小牧市ではGX（グリーン・トランスフォーメーション）関連、2031年街びらき予定である駅前再開発、データセンター誘致など、多くの重要プロジェクトが同時並行で進んでいます。ファイターズ二軍施設の誘致は、これらのプロジェクトと相乗効果を生み、地域の将来的な財政基盤を強固にする「未来への投資」として位置づけられています。

3. 目指すべき施設像と経済効果

ソフトバンクや阪神の最新ファーム施設をベンチマークとして、検討が進められています。施設内容はメイン・サブ球場、室内練習場、選手寮に加え、商業施設や宿泊施設を併設した「賑わい創出型」のボールパークを目指しています。スケジュールは2026年6月までに候補地が決定する予定で、誘致成功時は2027年着工、2030年稼働を目指します。また経済効果については、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの試算によれば開業後10年間で約1,400億円の経済波及効果が見込まれています。

4. 広域連携による地域振興

「ファームの鼓動を苫小牧へ」というスローガンのもと、日胆地域の各自治体と協力。球場を拠点として、洞爺湖や登別、日高の馬産地などへ観光客を誘導するハブ機能を想定しています。地産地消のコラボレーションや、プロ選手を通じた青少年育成など、地域ブランド向上を目指します。

5. 市民・地域の熱意

誘致を後押しするため、10万票を目標とした署名活動を展開。現在、既に9万筆を超えており、地元の小中高生や学生、若手経営者、商店街などが一丸となって活動しています。例会では、市議会議員全員がファイターズのユニフォームを着用してエールを送る様子や、学生たちのPR動画も紹介されました。

外圍様は、6月の候補地絞り込みに向けた現在の重要性を強調しました。「二軍が苫小牧にきた未来」を市民全員でイメージし、地域一丸となってこの大きなチャンスを掴み取りたいという強い決意を述べ、スピーチを締めくくりました。

頑張らましよう!!!

